

# 施設一体型小中一貫校

5月18日

市民学習会

# 全国に成功例なし?!

## 都市部学校の統廃合ツール

5月18日、「和泉市の子どもと教育を守る会」（「和泉市の教育を考える会」から改称）主催の市民学習会「小中一貫校とは」が、和泉シティプラザで開催され、40人の参加がありました。



### 「先進」呉市でも3年目

前半、和泉市議会厚生文教委員会の行政視察で、広島県呉市を訪問した早乙女議員より報告がありました。

和泉市教育委員会が小中一貫校の「先進」「成功例」として紹介する呉

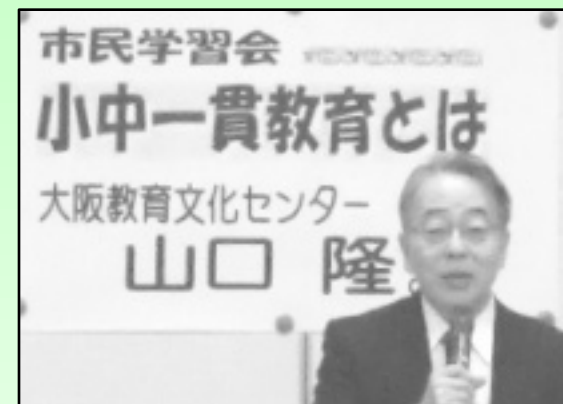
市ですが、最初の施設一体型小中一貫校「呉中央学園」の開校は2011年（平成23年）4月。しかも、校舎は完成は、昨年9月です。したがって、呉市の「先進」「成功例」と紹介されている一貫教育の事例は「施設分離型」の時代の実践も多く、必ずしも「施設一体型」の実践例とは言えないことが判明しました。

しかも、呉市では施設一体型小中一貫校の開校までに11年間に及ぶ研究期間をおいています。2017年4月に「施設一体型」一貫校開校を強行しようという和泉市教委の方針の無謀さが指摘されました。

### 東京で失敗したことをなぜ大阪で

後半は、前全教委委員長の山口さんより、全国・大阪各地の動向を踏まえ、以下のようなお話がありました。

「品川区などで失敗した『施設一体型小中一貫校』をなぜ、今頃大阪各地で強行しようとするのか。専門家は『一周遅れの新自由主義改革』と呼んでいる。」「地方では、市町村の合併とセットで学校統廃合が進められた。都市部では、小中一貫校が学校統廃合



のツールに使われている。」「地教委が持ち出す『9・10歳の壁』『中1ギャップ』は小中一貫教育導入のための方便」「さらに、その先にはスーパーエリート校が設置され、教育格差の拡大が考えられる。」「小中一貫校に反対する運動は、教育を国民の手に取り戻す運動である。」